令和２年度第１回公立大学法人宮城大学経営審議会議事録

日　　時	令和２年６月２３日（火）午前９時５０分から同１１時３０分まで
場　　所	宮城大学大和キャンパス本部棟３階　大会議室
出 席 者	阿部博之委員，田中正人委員，石井幹子委員，堀切川一男委員， 川上伸昭議長，正木毅委員，川村保委員，風見正三委員，工藤和浩委員， （オブザーバー）武田淳子理事，西條力理事，井上誠副学長
事 務 局	藤田事務局長，高橋次長兼総務課長，坂企画・入試課長，松本財務課長， 佐藤学務課長，高橋太白事務室長， 企画・入試課　小野寺課長補佐，小林主任主査
議事概要	１　開会 ２　挨拶（川上理事長） 本日は御多用の中，お集まりいただき感謝する。 新型コロナウイルス感染防止のため，会場を変更し，人と人との間隔を取るなど安全を確保した上で開催することとした。 本日は，新型コロナウイルスの影響により，年度実績と決算に関する審議が７月になったため，審議事項が「学長候補者の推薦について」の１件となるが，よろしく御審議賜るようお願いしたい。 ３　議事録署名人の選任 川上議長から，前回会議の議事録について出席者に確認を求めた後，石井委員及び川村委員が議事録署名人に指名された。 ４　審議事項 ⑴　議案１　学長候補者の推薦について ・　川上議長が当事者となる議案のため，進行を正木委員が行った。 ・　資料２に基づき，正木委員から内容の説明があった。 ○　議案１について異議なく承認された。 ５　報告事項 ⑴　本学における新型コロナウイルス感染症対策について ・　資料３に基づき，西條理事及び工藤委員から報告があった。 ・　その後，以下のとおり質疑応答があった。 （堀切川委員）東北大学では比較的早い時期にオンライン授業をすることになったが，教員も学生も何の準備もない状況だった。大学院生はすぐ対応できたが，学部生には対応がうまくいかない人もいたようだ。教員はようやく慣れて

きたところである。教員側がオンライン授業に真剣に取り組み，課題を対面授業より多く出す場合が多くなり，学生もより勉学に励むようになっているようだ。予想外のこととしては，教室を使用しないため，受講人数の制限がなくなったことから，科目によっては多くの学生が受講することになり，レポートや試験の対応に追われる教員もいるようだ。学生からすれば受講の自由度が高まるというメリットが特に大学院で顕著となった。

宮城大学では，新入生がいまだ登校できない状況において，大学生活になじませるためにどのような取組を行っているのか。

（川村委員）遠隔授業については，思ったほど混乱はなかった。社会人の大学院生の話では，職場の自席で授業を受けられるので遠隔授業の方がなじみやすいとのことだった。そういった自由度が高まったのは良い点だった。

新入生については，クラス編成され，クラス単位でスタートアップセミナーなどの授業を遠隔で受講し，ディスカッションも行われているため，それなりのコミュニケーションは取れていると思う。しかしながら，一度もキャンパスに来ていない，クラスメイトと直接会ったこともない状況のため，なるべく早く解消できるよう鋭意検討を進めているところである。

（武田理事）新入生については，遠隔授業の導入にあたって混乱もあったが，クラス担任が密に連絡を取り合うことによりサポートを行っている。看護学群については，７月中旬に遅れていた健康診断があるということで，それに向けて１年生には７月１１日土曜日に小グループに分かれて学内に集まってもらい，学群長あいさつやオリエンテーションなどをしてお互いにつながりを持つような機会を計画している。

（堀切川委員）４年生の就職活動の状況はどうか。

（川上議長）全国的に内定の状況は１か月遅れており，本学においても同じである。したがって，昨年度に比べると内定率は低い状況にある。本学においては首都圏への就職も一定程度あるため，オンライン面接への対応もキャリア部門でサポートしている。ようやく最終面接で首都圏において対面の面接が行われるようになってきている。地元企業の出足は首都圏よりも遅い状況にある。

⑵　公立大学法人宮城大学第３期中期計画（原案）について

・　資料４－１及び４－２に基づき，正木委員から報告があった。

・　その後，各委員から以下のとおり意見があった。

（石井委員）コロナ禍における学生の状況を教えてもらい，大変参考になった。看護の現場では，就職ガイダンスなどもできないため，来年度の採用についてとても焦っている。そのため，各職場が動画を作成し，県のホームページに掲載してもらうことで，学生に対するＰＲを県とともに行っており，県のサポートを心強く思っているところである。

（田中委員）本日は宮城大学の新型コロナウイルス感染症対策のほか東北大学の

状況についても教えてもらった。我々企業社会においても新型コロナウイルス対策に取り組まなければならない状況にある。例えば，当社の取引先で，首都圏の営業マンが東北６県に営業を行う場合，移動に多くの時間と労力を費やさなければならなかったが，オンラインでは自宅にいながら次々と営業を行うことができる。聞いてみると業績も上がっているとのことであった。このようにコロナ禍においては悪いことばかりではなく，大学や企業が対策を考え，講じることによって，ひいてはＩＴ化を始め社会システムの改善が叫ばれていた日本にとってはプラスになるのではないかと思う。学生にとっては，単位を取得するためというある意味受け身の心理が，オンライン授業によっていつでもどこでも学べるんだという自主性に目覚めるきっかけになっている。

一方，オンラインでは満たされない部分もあるため，ますますホームとしての宮城大学の存在感，宮城大学生の居場所の確立が大事になってくると思う。また，そういった中で，コロナ禍においてどのように行動するかについては，行動規範やマナーが洗練されたものでなければならないので，学生にとっても得るものが多いのではないかと思う。

（阿部委員）今の日本の大学を世界標準からゆがめているものは，財政と評価であろう。欧米各国には通用しないような短期的な期待と評価を中心に進められてきたことが大きなマイナスになっている。そのことが結局日本の国力の低下につながっている。これをどうやって突破していくかについて，単独の大学である宮城大学の第３期中期計画に盛り込まれるかどうかはわからないが，大きな課題だと思う。

新型コロナウイルス感染症対策については，宮城大学はよくやっていると思う。そもそもパンデミックが起こったら社会的経済的に大きな損害を受けることは周知のはずである。各国とも差はあるが，準備不足である。そのために財政的にも大きな損をしている。その準備不足を不問にして現在のことだけに対応している。しかしながら，政治はいつも現在への対応に追われているので，やむを得ない面もある。将来に対してのミッションを担当する組織があるとすれば，やはり大学が一番その任に適していると思う。中長期的に安全を確保していくことで，経済的損失はものすごく減るはずである。世界で過去に感染症に費やした研究費よりも感染症を減らしたことによる経済効果の方が圧倒的にプラスである。そうでありながら政府は感染症に関する研究費を増やすことに消極的である。大学は将来の資産である若者に対して中長期的に教育研究を行い，政府の不得意な点を補っていく必要がある。宮城大学は，新型コロナウイルス感染症対策をしっかりやっているが，併せて長期的な視点でどう取り組んでいくかも課題になると思う。

(3) デザイン研究棟完成披露式典の開催について

・ 資料５に基づき，工藤委員から報告があった。

	6　その他 ・　川上議長から，今野委員が６月１２日に宮城県中小企業団体中央会会長を退任したのに伴い，本学経営審議会委員も退任する旨報告があった。 ・　次回の令和２年度第２回経営審議会は令和２年７月２８日（火）午後３時から開催することを確認した。 7　閉会

この議事録は，令和２年度第１回公立大学法人宮城大学経営審議会の議事録である。

公立大学法人宮城大学

経営審議会議長　川上伸昭

議事録署名委員　川村保

議事録署名委員　石井幹子